

## 甲府市の事務事業における温室効果ガス排出状況について

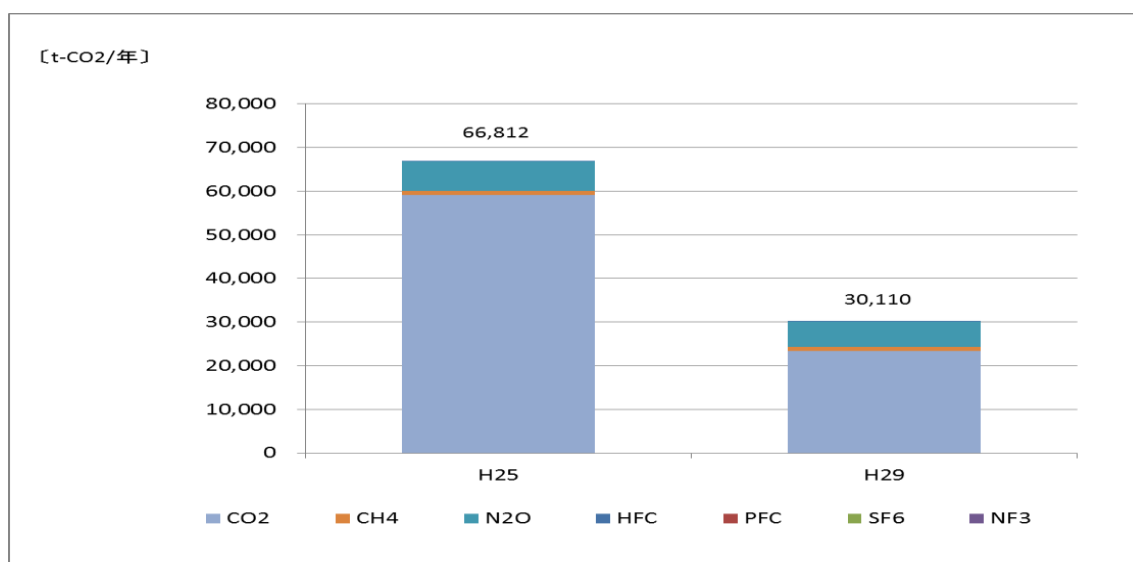
甲府市が行う事務・事業に伴って発生する二酸化炭素などの排出量を抑制するため、「甲府市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定しました。本計画では、本市の温室効果ガス排出量の状況や、省エネルギーへの取り組み等を踏まえ、「公共施設」と「公用車」について原単位目標を2016（H28）年度から設定し、平成25年度を基準年度として2030（H42）年度までに毎年1%ずつ削減（基準年度比15%削減）することを目指しています。

これに基づき、2017（H29）年度に関する本市事務事業における温室効果ガスの排出状況と、同年度の「公共施設」及び「公用車」に係る排出状況を公表します。

### ■温室効果ガスの排出状況

（1）総排出量及びガス種別排出量（単位：t-CO<sub>2</sub>/年）

ガス種類	2013(平成25)年度		2017(平成29)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )	59,081	88.4%	23,393	77.7%
メタン(CH <sub>4</sub> )	923	1.4%	937	3.1%
一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O)	6,803	10.2%	5,776	19.2%
ハイドロフルオロカーボン(HFC)	4	0.006%	4	0.012%
パーフルオロカーボン(PFC)	0	0.0%	0	0.0%
六フッ化硫黄(SF <sub>6</sub> )	0	0.0%	0	0.0%
三フッ化窒素(NF <sub>3</sub> )	0	0.0%	0	0.0%
合計	66,812	—	30,110	—
対基準年度比	—	—	△54.9%	—



※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

○総排出量は、甲府市が行っている全ての事務・事業（本庁舎、上下水道局、環境センター、小中学校、病院、公民館、公用車など）に伴い排出されるCO<sub>2</sub>等の温室効果ガスの総量をいいます。ただし、一部事務組合や広域事務組合を除きます。平成29年度は基準年度に比べ54.9%減少しています。これは、甲府・峡東クリーンセンターに移行し、環境センター焼却工場が閉鎖した事により二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）、一酸化二窒素（N<sub>2</sub>O）の排出量が減少した事が要因となります。

(2) 活動種類別排出量 (単位: t-CO2/年)

活動種類	2013(平成 25)年度		2017(平成 29)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
燃料の燃焼	3,378	5.1%	3,484	11.6%
他人から供給された電気の使用	21,990	32.9%	19,909	66.1%
一般廃棄物の焼却	35,251	52.8%	0	0.0%
産業廃棄物の焼却	3,408	5.1%	3,856	12.8%
ディーゼル機関における燃料の使用	3	0.004%	2	0.005%
ガス機関またはガソリン機関における燃料の使用	78	0.117%	82	0.126%
自動車の走行	10	0.015%	10	0.016%
下水又はし尿の処理	2,691	4.0%	2,727	4.2%
麻酔剤(笑気ガス)の使用	0	0.000%	36	0.056%
自動車数(エアコンディショナー)	4	0.006%	4	0.006%
合計	66,812	—	30,110	—

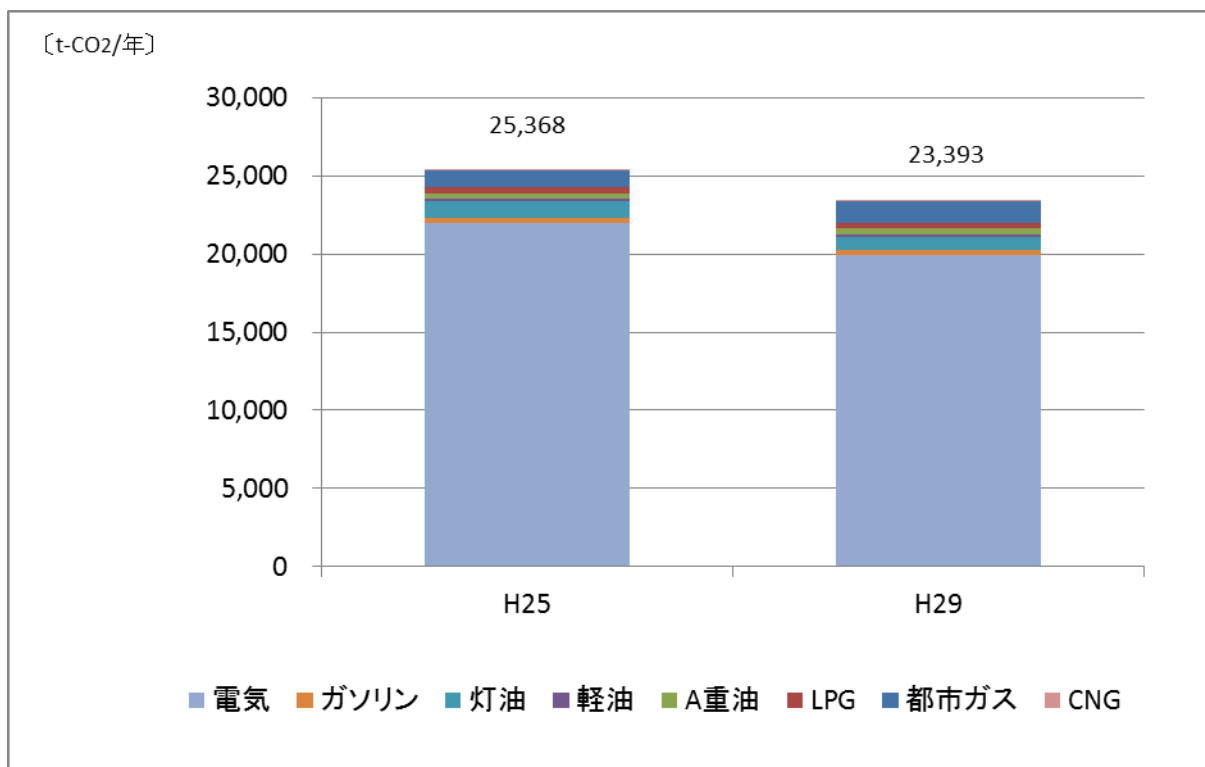
※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

○活動種類別排出量では、主に「燃料の燃焼」、「産業廃棄物の焼却」、「下水又はし尿の処理」が平成 29 年度は基準年度に比べ増加しています。また、「他人から供給された電気の使用」は基準年度に比べ減少し、「一般廃棄物の焼却」は環境センター焼却工場の閉鎖により排出量はありません。

(3) エネルギー起源二酸化炭素排出量 (単位: t-CO2/年)

エネルギー種類	2013(平成 25)年度		2017(平成 29)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
電気	21,990	86.7%	19,909	85.1%
ガソリン	328	1.3%	323	1.4%
灯油	1,068	4.2%	837	3.6%
軽油	152	0.6%	134	0.6%
A 重油	289	1.1%	437	1.9%
LPG	455	1.8%	359	1.5%
都市ガス	1,074	4.2%	1,392	5.9%
CNG	12	0.05%	3	0.01%
合計(エネルギー起源 CO2 排出量)	25,368	—	23,393	—
(再掲)温室効果ガス排出量	66,812	—	30,110	—
エネルギー起源 CO2 の排出比率	38.0%	—	77.7%	—

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。



○エネルギー起源二酸化炭素排出量は、(2) 活動種別排出量のうち「燃料の燃焼」及び「他人から供給された電気の使用」の合計値にあたります。

○エネルギー起源二酸化炭素排出量と全体に占める割合は、全体の温室効果ガスの排出量（一般廃棄物の燃焼含め減少）が減少した事により増加していますが、エネルギー起源二酸化炭素排出量は基準年度に比べ減少しており、本市の省エネルギー対策等の効果が現われていると考えられます。今後も引き続き効果拡大を図るため、様々な取組みの強化を図っていきます。

○エネルギー起源二酸化炭素排出量において、平成 29 年度では「電気」の割合が圧倒的に多く、二番目に多いのが「都市ガス」となっています。

また、基準年に比べ電気や灯油は減少していますが、A重油や都市ガスは増加しています。なお、他のエネルギーについては基準年に比べ微減となっています。

## ■「公共施設」及び「公用車」に係る排出状況

### 【計画の目的と削減目標】

「公共施設」の削減目標は、2020（H32）年度の本市温室効果ガス排出量原単位（公共施設の延床面積1㎡あたり）を2013（H25）年度比7%以上削減、「公用車」の削減目標は、公共施設と同様に「2020（H32）年度の温室効果ガス排出量原単位（公用車1台あたり）を2013（H25）年度比7%以上削減」としています。

また、平成29年度の温室効果ガス排出量原単位（公共施設/公用車）をつぎのとおり公表します。

#### （1）温室効果ガス排出量（公共施設/公用車）（単位：t-CO<sub>2</sub>/年）

区分	活動種類	2013(平成25)年度		2017(平成29)年度		対基準年度差
		個別	分類別合計	個別	分類別合計	分類別
公共施設	他人から供給された電気の使用	21,990	24,992	19,909	23,099	△1,893
	ディーゼル機関における燃料の使用	3		2		
	ガス機関またはガソリン機関における燃料の使用	78		82		
	麻酔剤(笑気ガス)の使用	0		36		
	燃料の燃焼	2,921		3,071		
公用車	公用車以外	457	470	414	428	△42
	自動車	10		10		
	自動車の走行	10		10		
	自動車数(エアコンディショナー)	4		4		

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

※活動種類別排出量の一部を再掲しています。

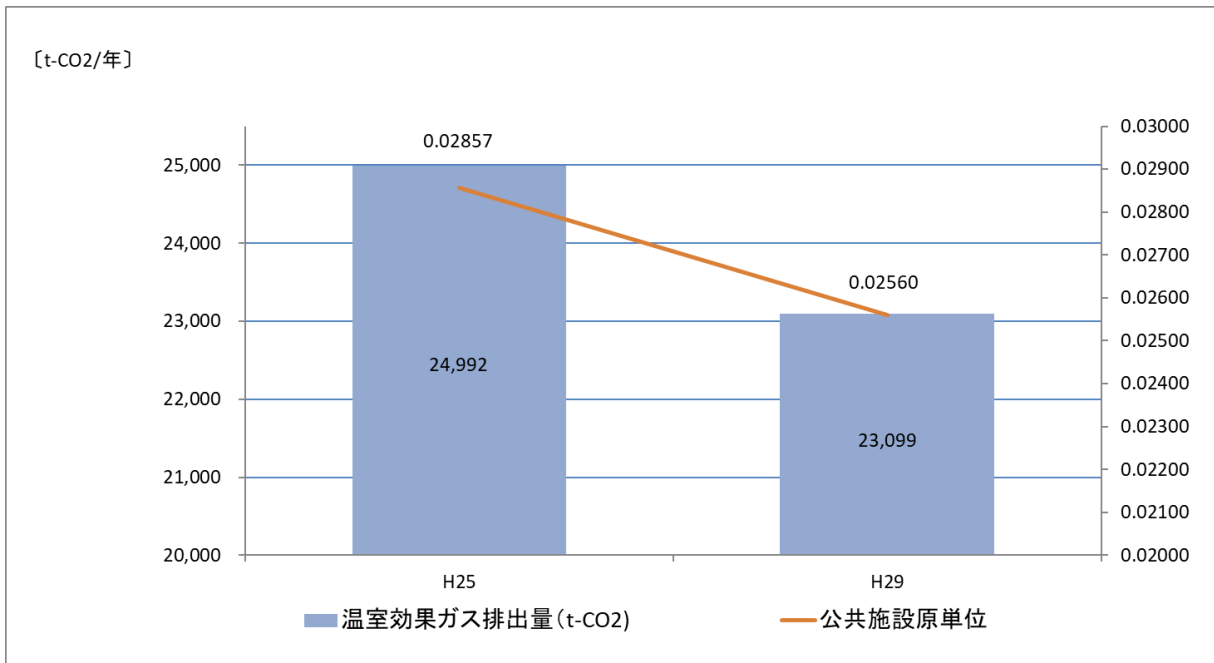
○公共施設・公用車の温室効果ガス排出量は、平成29年度は基準年度に比べ減少しています。

#### （2）温室効果ガス排出量削減原単位（単位：t-CO<sub>2</sub>/年）

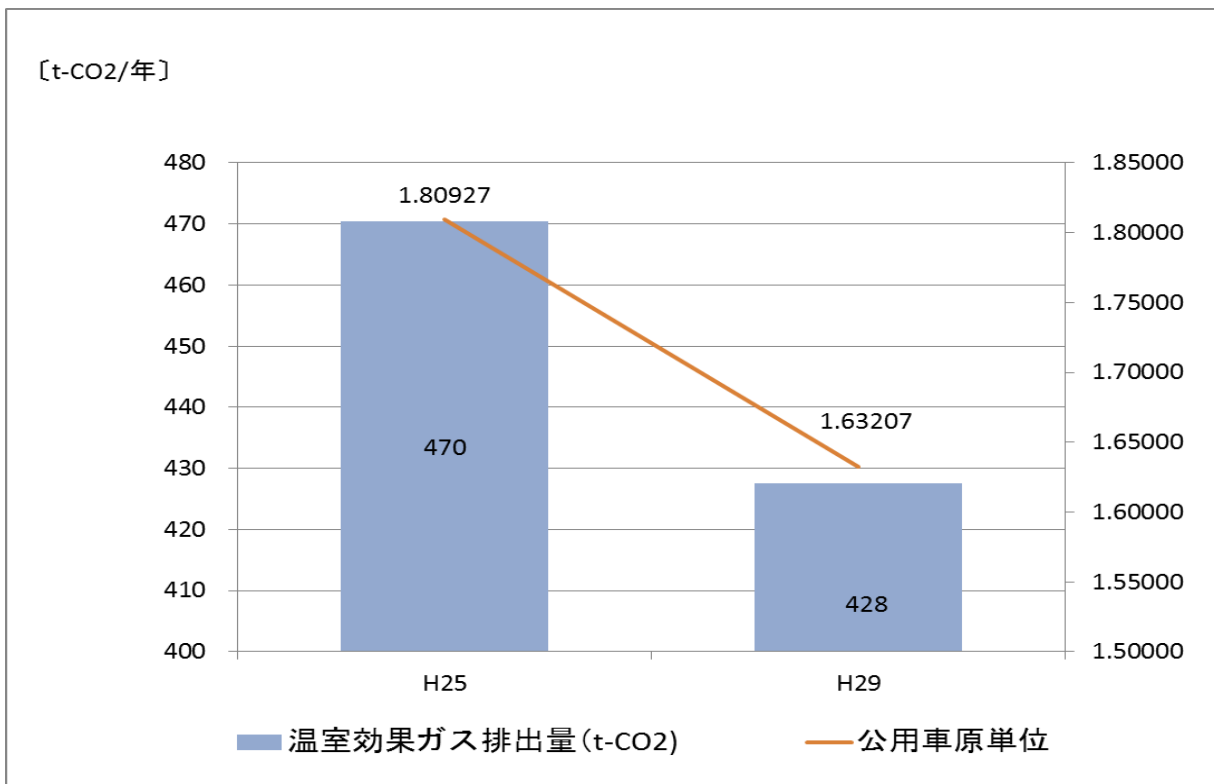
公共施設	2013(平成25)年度	2017(平成29)年度
	基準年度	
温室効果ガス排出量	24,992	23,099
延床面積(㎡)	874,762	902,347
原単位(t-CO <sub>2</sub> /㎡)	0.02857	0.02560
基準年度比		△10.4%
公用車	2013(H25)年度	2017(H29)年度
	基準年度	
温室効果ガス排出量	470	428
車両台数(台)	260	262
原単位(t-CO <sub>2</sub> /台)	1.80927	1.63207
基準年度比		△9.8%

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

## 【公共施設】



## 【公用車】



○原単位とは、「温室効果ガス排出量」を「公共施設の延床面積」や「公用車の台数」で割ったものです。

○公共施設・公用車とも、平成29年度は基準年度に比べ減少しています。